

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT
特別号

Special Number

北半球から南半球へ
新たな地球一周の船旅



【発行】(株)ジャングレイス

グローバル ヴォヤージュ 特別号 2026年4月15日発行 編集発行人:井上直 発行所:株式会社ジャングレイス 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13-2F TEL.0570-030-617

南も北も、地球を丸々見る、 価値あるクルーズです

世界一周クルーズは、これまで西回りまたは東回りの航海が一般的でした。しかし、今回の Voyage 124 は航路変更により、地球の東西南北を巡る壮大な航海となります。アジア各港に寄港した後、南インド洋を横断してアフリカ大陸最南西端の喜望峰まで南下。その後、一気に北上しアイスランドの北極圏に到達します。さらに北大西洋を南下し、ニューヨークを経由した後、世界的に有名なパナマ運河を通過。南米ペルーに寄港後、南太平洋の絶海の孤島イースター島などを經由して日本に戻ります。

このような壮大な航海では、世界の海流やそれがもたらす天候、気温、さらには予想外の動物たちの生態系に触れる機会があり、多くの驚きと感動を経験していただけるでしょう。今回の航路は、地球一周4万キロをはるかに超え、私の推測では6万キロ近くに及ぶと思います。

移動しながら、北半球と南半球を一度に巡る航海を経験することは、船乗りにとっても非常に稀なことです。ご乗船の皆さまには、旅の終わりに今クルーズの総航海距離を記載した「地球一周証明書」をお一人ずつお渡しいたします。およそ100日前に出帆した港へ戻る際には、人類の歴史の中でも限られた人しか経験できない、スケールの大きな大航海を成し遂げた喜びと誇りを感じていただけることでしょう。ぜひ、この素晴らしい船旅を共に楽しみましょう。本船で皆さまをお待ちしております。



ジャングレイス事務局長
(航海士元船長)

狭間 俊一





多様性に富む新寄港地で味わう 未体験の感動

Voyage124における新たな航路では新寄港地が加わりました。
ポートエリザベスの野生動物との出会いや陽光降り注ぐカナリア諸島、
音楽・芸術の発信地リパプールで歴史的な建造物と現代文化に触れるなど多彩な体験が待っています。
インド洋から大西洋を抜け、
ヨーロッパや中南米を訪れる地球をぐるりと回る航海が、新鮮な感動をお届けします。



Cape Town

自然と都市が融合した魅力に富んだケープタウンの全景。

アフリカ最南端で出会う、壮大な 景色と多様な文化「ケープタウン」

大西洋とインド洋に挟まれたケープタウンは、「世界で最も美しい都市」のひとつとして愛される、南アフリカ屈指の観光地です。ダイナミックなテーブルマウンテンやケープポイントの自然、歴史の薫りが漂う街並み、そして新鮮なシーフードやワインといった美食まで、多彩な魅力で訪れる人々を惹きつけます。



南アフリカ共和国

1: 喜望峰のサインボードはこの地に到達した記念撮影にぴったりの名所。
2: 海と空が織りなす絶景を望める灯台。3: 遥かなる水平線とともに広がる喜望峰の雄大な風景。



4: 歴史の重みと優美さを感じられる「市庁舎」。5: 活気あふれる港町「V&Aウォーターフロント」でショッピングとグルメを満喫。6: ワインのメッカとして知られる南アフリカはワイナリーも観光スポットの一つ。

「世界自然遺産」 ケープ植物区 保護地域群



ケープ半島の自然を象徴する世界遺産。この地方に広がる独特の植生や、マラカイトサンバードも生息しています。



ボルダーズ・ビーチで出会える愛らしいペンギンたち。

ケープタウンは、歴史的な街並みと雄大な自然が絶妙に融合した都市です。街の象徴である「テーブルマウンテン」を満喫するには、ロープウェイで山頂に向かい、雄大なパノラマを楽しみながら、大西洋や街並みを一望しましょう。隣接するライオンズヘッドでは、山をハイキングするのも人気です。夕暮れどきは特に美しい景色を堪能できます。

自然愛好家であれば必見なのが「ケープ植物区保護地域群」。ユネスコ世界遺産に登録されており、この地域で見られない多彩な植物が生息しています。ここから南下すると、アフリカ大陸の最南西端「喜望峰」が現れます。切り立つ崖と広がる海景は、訪れる人々を圧倒します。途中の道で、ボルダーズ・ビーチの可愛らしいペンギンコロニーに立ち寄り、野生のケープペンギンに出会う感動も味わうことができます。

市内観光では中心部にある市庁舎がひととき目を引きませんが、周辺にも荘厳な建築や広場があり、街の歴史と文化を感じるには最適なスポットです。その隣接地にはネルソンマンデラが解放後に演説を行った歴史的な広場もあります。ここから少し歩くと、カラフルな建物が並ぶボカープ地区が広がり、異国情緒あふれる風景も楽しめます。

ショッピングとグルメを楽しむならヴィクトリア・ワーフ・ショッピングセンターへ。地元の新鮮なシーフードや国産色豊かな料理を堪能できるだけでなく、歴史とアートが交差する博物館も多くあります。また地元のワイン文化に触れるなら、近郊のステレンボッシュやフランシスホークのワイナリー巡りを組み込むと、南アフリカの新たな魅力を発見できます。

歴史に興味がある方は、アパルトヘイト博物館を訪れることで、この街が歩んできた道のりに触れることができます。自由と平等を求めた南アフリカの歴史が、映像や展示物を通してリアルに伝わってきます。



Hong Kong

ビクトリア・ハーバーを行き交う船と、対岸に広がる香港島の摩天楼。

近代と混沌が織りなす 摩天楼都市「香港」

高層ビルが林立する近未来的な景観の足元には、昔ながらの屋台や市場が広がる香港。英国統治時代の面影を残す建物と、美食の数々、そして歴史ある寺院や街並みが共存するこの街は、行く先々で様々な表情を見せてくれます。

香港に降り立つて、まず感じるのは圧倒的なエネルギーです。港を囲む摩天楼と行き交う船、活気あふれる街並みが織りなす風景は、この街ならではの魅力。時間帯によって表情を変え

る都市のダイナミズムを、間近に感じることが出来ます。その景色を最前列で楽しめるのが「アベニュー・オブ・スターズ」。海風を感じながらブルース・リー像と対面すれば、この街が育んできた文化とエンターテインメントの歴史を身近に感じられるでしょう。



1:文武廟には香煙が漂う静寂の空間に、古くから続く信仰と祈りの文化が息づいている。2:オープントップバスから眺める街並みは、香港の活気を間近に感じられる体験。3:多彩な料理を少しずつ楽しめる、香港の食文化を象徴する伝統的な飲茶。4:香港映画の歴史を象徴する場所で、ブルース・リー像が海を見つめて立つ。

一方で、街の喧騒の中へ飛び込めば、まったく違う表情に出会えます。「オープントップバス」でネイサンロードを駆け抜ければ、看板が迫るような距離感で広がる香港らしい景観が体感できます。さらに「文武廟」では、立ちのぼる線香の煙に包まれ、静かな祈りの時間が流れています。旅の合間に楽しみたいのが、本場の飲茶。湯気とともに運ばれる点心の一皿一皿に、この街の豊かな食文化が詰まっています。



サファリと美しい海岸線をはじめとする 魅惑の港町「ポートエリザベス」

「南アフリカのフレンドリーシティ」として知られるポートエリザベス。雄大なサファリから、文化や歴史に触れる観光地、海沿いのリゾート感あふれるスポットまで楽しみが満載です。

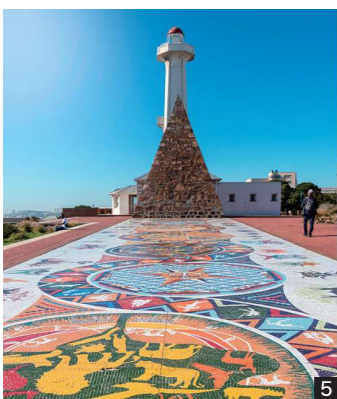


南アフリカ共和国



ポートエリザベスで多くの観光客が楽しみにしているのは広大な保護区でのサファリ体験。象やキリン、ライオンなどアフリカ特有の動物たちが息息するエリアを探索するワクワク感は格別です。保護区では、四輪駆動車でのドライブサファリが人気。動物の識別、地元の歴史、植生など幅広い知識をもつガイドによる案内で巡ることが出来ます。

この丘からは、ネルソン・マンデラ湾を一望に収められます。またポートエリザベスは40キロにもおよぶ美しいビーチが広がるリゾート地でもあり、海辺の人気エリアであるボードウォークは、カフェやレストランに入ったたりお土産を探したりするのに絶好です。水族館やエンターテインメント施設も充実しており、幅広い世代が満足できるアクティビティが揃っています。



5:街のシンボルであり歴史的な見どころが集まる「ドンキン保護区」。6:洗練されたレジャー&リゾート施設の「ボードウォーク」。



様々な野生動物を見ることができるサファリ体験は人気の高いアクティビティ。



Port Elizabeth

手つかずの自然が残されたアフリカの大地で観察できる迫力ある象の姿。

歴史と自然、グルメが彩る島の旅

「テネリフェ島」



スペイン領カナリア諸島のテネリフェ島は、スペインとアフリカ文化が融合するユニークな魅力を持つ島です。世界遺産の街並みや、壮大な火山風景、地元のグルメが訪れる人々を魅了します。



新鮮な焼きイカにサラダを添えたスペイン料理。

テネリフェ島は大西洋に浮かぶカナリア諸島最大の島。スペイン植民地時代の影響を色濃く残す歴史ある街並み、自然の絶景など多彩な魅力をもっています。まずは世界遺産のサン・クリストバル・デ・ラ・ラゲーナ旧市街の石畳の通りを歩きながら、カラフルな建物や雑貨店を巡り、島の歴史に触れてみましょう。

自然を堪能するならテイデ国立公園を訪れるのがお勧め。スペイン最高峰の火山の荒々しい景色が広がるこの公園にはロープウェイで山頂近くまでアクセスでき、島全体を見渡すパノラマ景色を体験できます。トレッキングも人気で、大自然のスケール感を実感できます。グルメを楽しむなら、カナリア諸島独自の味覚に注目を。新鮮な魚介を使った料理やラム酒、さらにはフルーティなカナリアワインといった地元の味を楽しんでください。



1: 大西洋に浮かぶ楽園、遥かにテイデ山を望み海岸線が広がるテネリフェ島。2: 歴史と文化の息づかいを感じるララゲーナの街路。



港町の記憶と音楽が響く街

「リバプール」



港湾都市として栄えた歴史を背景に、音楽や芸術の発信地として知られるリバプール。歴史的な建造物と現代文化が共存する街は、自由散策がしやすく、はじめて訪れる方にも人気の寄港地です。



世界中のファンが集う、マーシーサウンドを象徴するビートルズの銅像。

リバプールの魅力は、港町としての歴史と多彩な文化が重なり合う点にあります。マージー川沿いには、交易で栄えた時代を物語る建築群が並び、「ピアヘッド」から望む景観はこの街の象徴ともいえる存在です。近くの「アルバート・ドック」では、歴史的な倉庫を活かした施設が並び、現在は文化拠点として多くの人で賑わいます。



街を歩けば、音楽の息吹にも触れることができます。かつてビートルズが活動した「キャヴァーン・クラブ」周辺には、今もその記憶が色濃く残り、世界中のファンを惹きつけています。さらに大聖堂が並ぶ壮麗な景観や「リバプール博物館」などを巡れば、この街が世界とどのように結びついてきたのかをより深く知ることができます。



6: 港町の歴史を語る水辺の倉庫群。今は文化と賑わいの拠点。7: 威風堂々と街を見守る英国最大級の荘厳なリバプール大聖堂。8: マッシュー・ストリートにあるビートルズファンの聖地「キャヴァーン・クラブ」。

インド洋に浮かぶ美しい島国の首都

「ポートルイス」

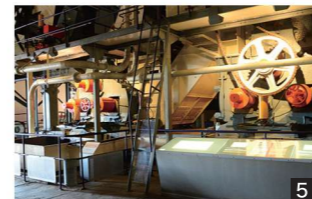


ポートルイスは、インド洋の楽園モーリシャスの玄関口であり首都。政治、経済の中心であると同時に、美しい自然と文化的な魅力が詰まった街です。



ヒンズー教の聖地でもある「グラン・バッサン」。

ポートルイスの魅力は、街の表情の豊かさにあります。多民族、多文化が融合し、街を歩けばヒンドゥー寺院の祈りの煙、モスクのミナレット、そしてヨーロッパ調の建物が調和しています。政府庁舎やセントルイス大聖堂などからは、植民地時代の面影が見てとれるでしょう。アラヴァシ・ガートは、19世紀に契約移民労働者の受け入れ施設であった場所で、世界遺産に登録されています。街歩きをしながら美しい海と山の景色を同時に堪能することができますのも魅力。お土産を探すなら活気あふれる中央市場やルコタン・ウォーターフロントへ。少し足をのびして南西部にあるシヤメルルへ向かえば、自然が生んだ奇跡である七色の大地や迫力満点のシヤメルル滝など、圧倒的な自然と出会えます。



3: シヤメルル鉱山の鉱物が化学反応をおこして生まれた七色の大地。4: 空から望むポートルイス。海と山に囲まれ多文化が息づく街並み。5: モーリシャスの一大産業、サトウキビから砂糖をつくる工程などが分かる「砂糖博物館ラヴァンチュール・ドゥ・シュクル」。

オーバーランドツアーで行く

大地を切り裂く、轟音のカーテン

「ビクトリアの滝」



イギリスの探検家リヴィングストンが、その神々しさから女王の名にちなんで命名した「ビクトリアの滝」。現地では大自然への驚異から「雷鳴の轟く水煙」とも呼ばれています。幅約1.7km、落差約100mを流れ落ちる滝、その轟音は四方に響き渡り、巻き上がる水煙とともに見る者すべてを圧倒します。遊歩道からは複数の角度で滝を間近に眺めることができ、晴れた日には巨大な虹が



9: 滝のすぐそばを歩ける大迫力の遊歩道。10: 落差100メートルを流れ落ちる白い壁。11: 空から見ると大地を裂くように落ちる水の奔流。



すごいぞ世界一周

数多くのテレビやラジオ番組に出演している高橋和夫さんには、これまでも水先案内人として、何度もご乗船いただいています。昨年末に帰国したVoyage121では、なんと全区間にご乗船いただきました。その世界一周の体験を踏まえて、ピースポートならではの航海の魅力について御寄稿いただきました。



高橋 和夫さん
TAKAHASHI Kazuo

(国際政治学者、放送大学名誉教授)

世界情勢をわかりやすい言葉で話してくれる国際政治学者で、解説者として数多くのテレビ番組に出演。また世界の複雑な問題を鋭く、かつ分かりやすく解説してくれる講座は、毎クールズ人気が高い。著書に『モデルナとファイザー、またはバイオンテック』(GIEST)、『なぜガザは戦場となるのか』(ワニブックス)、『パレスチナ問題の展開』(左右社)、『アラブとイスラエル』(講談社新書)、『イランとアメリカ、そしてイスラエル』(朝日新聞社、近刊予定)など。

高橋和夫の中東・イスラム・国際情報

<https://news.yahoo.co.jp/expert/authors/takahashikazuo>

X (旧ツイッター)

<https://twitter.com/kazuotakahashi>

YouTube チャンネル「高橋和夫&小沢知裕ルーム」

<https://www.youtube.com/@GIEStstitute>

世界一周達成だ。何だろう。この気持ちの高ぶりは、世界一周といつても、自分で何をしたわけではない。船に乗っていただけだ。そして船の方が勝手に地球を回ったのだが。

これまで何度も、講師として船には招かれた経験はあったが、仕事の都合上、世界一周は、できなかった。しかし、今回は思い切つて、しがらみを断つて、Voyage121クルーズの全区間に乗船した。インド洋と大西洋での洋上の区間が長かった。

洋上の日程が長いと良いこともある。それだけ海を見て、空を見て、波を見つめて、雲と話し、星と月を眺め

る時間があるからだ。こちらが見つめてみると、月や星が、見てくれているのではと考えたりする。空模様にも恵まれて日の出や日没が見えると、朝焼けや夕焼けの光が心の中にもまで射(さ)し込んできそう。そして、そこに眠っていた子どもの頃の記憶を照らし出してよみがえらせてくれる。日本の都会で生活している私には、こうした非日常が日常の船生活は、それだけで格別だ。

航海中の船内では、講座に行つて、じっくりと話を聞いて勉強するのもよし、その振りをしながら居眠りするものもよい。「船を漕(こ)ぐ」という



表現を思い出す瞬間だ。だが実は、船を漕いでいては、もつたない講座が詰まっていた。世界各地から訪問地の専門家が招かれていた。英語や中国語の講演でも、それが通訳たちの頑張りでも日本語で聞ける。またAI翻訳も導入されている。それに、さまざまな舞踊団やバンドが乗船しており、ダンスや音楽が船内に満ちていた。

洋上区間は、社交ダンス、水彩画、ヨガ、英語、スペイン語のレッスン、楽器の練習など、趣味を深める時間でもある。ダンスパーティーからファッションショーまで、運動会から夏祭りまであつて、飽きさせない日々の連続だ。しかも、参加者が着飾つて参加するファッションショーに反映されているよ

うに、乗船客が参加する。船上では皆が主役だ。

主役といえば、参加者が自ら企画するイベントも盛りだくさんだ。会場の予約が難しいほどだ。お客さんの熱心さに船は熱くなつていった。もちろん何もしないと至高の娯楽もある。デッキでジャグジーに入つてボートするといふひとときわ贅沢な時間の使い方もできる。ピースポート最高だ。

私の場合は、ちょうどインド洋が古代世界の交易に果たした役割を再評価する分厚い英語の歴史書を読んでいた。最近の英語圏でのベストセラーだ。インド洋で読もうと持ち込んだ。本で新たな知識を学びなが



ら、その現場を航海したわけだ。本の中の知識と現実の風景が頭の中で融合する体験だった。もちろん寄港地にも興奮させられた。いちばんの成果は、ニューヨーク訪問だった。船は10月の中旬に、この都市に着岸した。ちょうど市長選挙のキャンペーンのホームストレッチだった。最有力候補はゾーラン・マムタニというニューヨーク州議会の議員だった。その選挙区を訪問した。ケバブを焼く煙が漂つていた。髪を隠したイスラム教徒の女性が歩いていった。そこで露天商の話の聞いたりしながら、選挙地盤の雰囲気浸った。なるほど移民の多い庶民の生活する地域だった。そして11月4日の投票の結果を待った。予想通りに、この移民の多い地域を地盤とするマムタニが当選した。勝利演説では、ニューヨークは移民の街だ。今日から移民が市長として指導すると高らかにマムタニは宣言した。肉を焼く煙の香を思い出しながら、その演説を聞いた。ピースポートのおかげで絶好のタイミングで現地取材できた。

そしてパナマ運河の風景にも心を

奪われた。20世紀の初頭に完成した運河だ。深い緑の密林の間を貫く水路がアメリカの国力と強い意志を反映しているようだった。この運河と兩岸の運河地帯をアメリカが保有していた。しかし、1970年代末にアメリカのジミー・カーター政権は、運河を同国に返還した。そのためにはアメリカ議会の同意を必要とした。カーター政権は、その説得に苦労した。ちょうどアメリカの大学で学んでいた筆者は、ワシントンで議会説得工作の担当者のお話を聞いたのを思い出した。そして今、トランプ大統領がパナマ運河はアメリカの物だとの発言をしている。パナマは、いつまでたってもアメリカ政治家にとつては、重要な関心事項だ。さまざまな記憶を頭の中に再生させながら運河の風景に見入った。

多くの識者が、アメリカの政治やトランプ政権を語る。だが、選挙前にニューヨークの新市長の地盤を視察したり、つい最近にパナマ運河を通過したりした国際政治学者は、この船に乗っていた人物だけではないか。すごいぞ世界一周クルーズ!



4回目の世界一周も たっぷり楽しめました

Voyage118に乗船された鍋田真弓さん。4回目の世界一周の旅は申し込み後に航路変更となりましたが、「変更されたプランのなかで楽しもう」と考え、世界一周の旅を満喫しました。寄港地の思い出などについて話を伺いました。

鍋田真弓さん



鍋田さんは4回目の世界一周になるVoyage118に、出発前どのような期待を抱いていましたか。

大好きなアフリカにまた行けること、そしてオーロラを見ることをとても楽しみにしていましたが、この2つについては大満足の旅となりました。ポートエリザベスの「サファリツアー」、最高でした。実は思ったより寒かったんですけど多くの野生動物と出会えました。ケープタウンではタウンシップランガ地区の交流ツアーに参加しました。これはかつての「黒人居住地」を訪ねるピースボートならではの貴重な機会になりました。オーロラは、もう期待以上でしたね。すごく長い時間、オーロラ観察ができましたが、神秘的な世界を体感した贅沢な体験でした。

出発前に航路変更の発表がありました。その点はどう受け止めたか。

何ごとも予定通りにいかないことはあるし、変更になったらなっただ、そのなかでどう楽しもうか考えたほうが良いと思いました。航路変更

いつ出現するかわからないオーロラを、どうやって待つているのですか。

デッキで待つこともできますが、寒さもありますので船内でお過ごしただけのがおすすめです。オーロラ鑑賞区画では温かいドリンクも用意しています。出現の可能性が高まった際には船内放送でご案内しますので、そのタイミングでデッキへお越しいただくと安心です。

オーロラ観賞の前には、さまざまな船内企画もあると聞いています。

オーロラ講座のほか、クルーズごとに内容は異なりますが、これまではオーロラファクションショーや撮影講座、ビンゴ大会などを実施してきました。バーではオーロラカクテルをご用意することもあり、ご乗船中も楽しみながらお待ちいただけるよう工夫して



よって加わった寄港地も素晴らしかったですよ。たとえばラスパルマスでは一人で島内をバスで巡ったのですが、市場に行ったり本場のイペリコ豚を堪能したりして満喫しました。ポルトについては下調べせずに行きましたが、街並みがとても綺麗でした。リパールはビートルズファンには堪りませんね。現地でギター片手にずっとビートルズナンバーを歌っている男性がいました。サモアのピアでは自立を目指す女性たちと会うツアーに参加し、大歓迎を受けました。思い出話し出したらキリがありません。予定が変わっても素晴らしい旅であることに変わりはありません。

ポジティブな考え方、素晴らしですね。

以前、世界遺産検定マイスターであり水先案内人でもある片岡英夫さんに言われたことがあります。「世界周の旅には環境、金、健康、国際情勢、機会、気持ちの「6K」



そこまで鍋田さんを惹き付けるものは何でしょうか。

寄港地も素晴らしいですが、船内の自主企画やイベントが魅力です。前回は航路変更で洋上が長くなったため、その機会がすごく多かったんですが、どれも参加し楽しめました。あとは船内の色々な方との出会い、これもピースボートならではのですね。

クルーズディレクターが「絶対、外せません」と推すオーロラ鑑賞



クルーズディレクター 尾形康仁 OGATA Yasuhiro



Voyage124のクルーズディレクターという立場から、観光スポットで見逃せないところはどこでしょうか。

外せないところはいくつもありですが、個人的にナンバーワンはやはりオーロラです。天候に左右されるため運に委ねられる部分もありますが、その分、実際に見られたときの感動はひとしおです。光のない海の上に満天のオーロラが広がる瞬間の驚きと、圧倒されるような神秘性は、ぜひ皆さまに体験していただきたいと思います。本当に時間を忘れて見続けてしまう、自然の壮大さを感じる現象です。

ご自身が体験したときはどのようなタイミングで出現しましたか。

私がオーロラを見たのは昨年、21時頃のことでした。船内で過ごしていた際に、周囲の様子や空の変化から出現の気配を感じ、デッキへ向かいました。すると頭上には、ゆらゆらと揺れる濃い緑色のオーロラが出ていました。ただ、そのときは2〜3分ほどですぐ見えなくなってしまう、タイミングによってはご覧いただけなかった方もいらっしゃるかもしれません。その後2日ほど観測できない日が続きましたが、3日後の夜、空を覆うオーロラが出現したので

今年もオーロラは見えますか？

2025年は太陽活動が特に活発な時期にあたり、オーロラの当たり年といわれています。その流れは今年も引き続き続くと見られており、観測のチャンスはまだ十分に高いと考えられています。太陽活動はピークの前後も活発な状態が続くため、今年も美しいオーロラが期待できるでしょう。アイスランドでは9月以降、比較的高い確率で観測できる見込みです。あとは当日の好天を祈るばかり。この絶好の機会に皆さまと一緒できることを楽しみにしています。



2025年Voyage121の船上で撮影したオーロラ。